

「新たなビジネスモデルの構築に向けた TRIZ 思考や手法の適用」

ビジネス・経営TRIZ研究分科会(NPO法人 日本TRIZ協会)

吉澤郁雄((学)産業能率大学)、長谷川公彦(アイディエーション・ジャパン(株))、佐藤 聡(慶應義塾大学大学院)、久野 茂(NKNコンサルティング(株))、森谷康雄(富士通アドバンステクノロジー(株))、前田卓雄(匠システムアーキテクト(株))、上村輝之(ウイルフォート国際特許事務所)、菊池史子(パイオニア(株))、池田 理((株)ニコン)、伊沢久隆(ソニー(株))

概要

いままで、公開されている TRIZ の適用事例は、ワールドワイドで考えても、ほとんどが技術課題であった。今後、TRIZ を更に拡大、普及させるためには、ビジネス、経営およびマネジメント分野の課題に対しても活用できることを証明していくことが求められる。

本研究会においては、ビジネス、経営およびマネジメント分野の課題に対して、適用方法、事例研究など、TRIZ を活用するための研究とガイダンス構築を目指し、TRIZ の普及・発展に供することを目的として活動している。第1弾として、TRIZ 適用領域のうち、新たなビジネスモデルの構築に TRIZ 思考や手法を適用することを検討対象として設定した。

新たなビジネスモデル構築のためのフェーズとして、以下のフェーズを検討対象としている。

1. 対象事業の設定
2. 事業の現状把握 (事業者へのヒアリングと資料調査)
3. 新たなビジネスモデルを構築するためのスキームの構築
4. スキームに基づくビジネスモデルの構築
5. 新たなビジネスモデルの提示と評価 (事業者へのヒアリング)

今回は、「大型ビジョン事業」を検討事業として設定した。2009年度は、フェーズ1. 及び2. を踏まえて、フェーズ3. 「大型ビジョン事業」の新たなビジネスモデル構築の基本スキームとビジネスモデルの要素を検討した結果を報告した。2010年度の報告内容は、検討フェーズの4. を核として、新たなビジネスモデルを時間軸に位置づけ、短期・中期・長期のビジネスモデルの概念構築の検討結果を報告する。さらに、短期的なビジネスモデルの概念を核として大型ビジョン事業者にも内容提示した評価結果を報告する。

内容説明

新たなビジネスモデル構築の基本スキームとして、以下の4つの方向性を基軸におき、解決策を模索する。

1. 理想性の向上を基軸として、
 - パターン①：有益機能の達成水準を高めるパターン
 - パターン②：消費した資源をさらに縮小するとともに、有害作用を排除または回避していくパターン
 - パターン③：パターン①を追求することによってパターン②の追求を阻害する。または、パターン②を追求することによってパターン①を阻害するといった矛盾を解決するパターン
2. 事業目的を再定義することを基軸として、
 - パターン④：有益機能の意味を再定義し、新たな有益機能(目的)とその達成水準を設定して、機能達成の手段を構築するパターン
3. これらのパターンの対処法として、以下の方法を試みることにする。
 - パターン①については、有益機能の強化に関するオペレーターを適用する。

パターン②については、有害作用の排除に関するオペレーターを適用する。

パターン③については、40の発明原理、分離の原則を適用する。

パターン④については、システム・アプローチ(9画面法)を適用し、時間軸を踏まえ、スーパーシステム(利害関係者)の視座から目的を再定義する。また、進化のトレンド(技術システム進化のパターン)を適用する。

4. 上記検討パターンについて、「大型ビジョン事業」を題材として、新たなビジネスモデルの要素を検討する。
5. 「大型ビジョン事業」の新たなビジネスモデルの要素を将来軸に位置づけ、短期・中期・長期のビジネスモデル(概念)を構築する。モデルの表記は、ビジネス状況を表すシナリオ及び状況の図化(リッチピクチャー)とする。
6. 新たなビジネスモデル(概念)を事業者にも提示し、内容の評価を受ける。
7. 1~6項の検討結果を報告する。